

一月十八日 勝ちとらる!

80旗びらき 団結集会

動労千葉 青年部

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎!

一月一八日、激動の時代の最先端を担う動労千葉青年部は「80年旗びらき・団結集会」を一〇五名の結集をもって圧倒的に成功させた。過ぐる一年間の組織防衛戦に文字通り身体をはって一線に立ちつづけ、全闘争を牽引し、厚い親類を勝ちとってきた青年部四〇〇名が新常任体制のもとにガツチリと団結し、あくなき奮躍をもとめて若々しい力をほとばしらせ、80年代に先頭きって進撃を開始したのである。

青年部員のべ一〇五名が結集

会場の千葉運転区講習室は定刻にはビッシリと埋め尽され、正面には各支部青年部が創意をこらして描き上げ持参した「自前の」スローガンが所せまじとはりめぐらされ、いかにも若かえった青年部らしい活気に満ちている。

17時15分、外山常任(木更津)の司会で全員の元気なシュプレヒコール・開会あいさつで開始された。田中青年部長のあいさつに続き、来賓として布施本部組織部長、永田千葉転支部長、三里塚芝山連合空巷反対同盟市東東市氏、千葉県青年共闘を代表して私鉄の青年労働者の仲間より、それぞれ連帯、激励のあいさつをうけた。

集会は加瀬(葛葉)常任よりの「千葉県労連青年部」ほか他数のメッセージ、激電紹介につづいて、元動労千葉地本青年部長大須賀昭男氏より「新たな試練にうち勝つ青年部運動をつくろう」と題する自らの経験にもとづく教訓と確信にみちみちた講演をうけた。

三月、青年部総決起へ! 繁沢書記

繁沢書記長による基調報告が約30分間にわたって行われた。

基調報告の骨子は、

- ① 激しい崩壊局面に入った世界情勢につき動かさず、日本帝国主義はリムパツクに見られる侵略と反動の政治を急激に強め、その危殆突破を三里塚闘争の解体と国鉄35万人体制攻撃にかけている。
② そのような背景のもとで強行された動労千葉への選別的な不当介入「処分こそ、当局と動労本部革マル分子の一体化を証明する歴史的犯罪行為である。その証拠は

この三月にも東京国電における乗務員運用大合理化問題への対応に危殆的に表われている。

- ③ このような当局の先兵へと完全になり下った動労本部反動暴力分子を動労内から粉碎、一掃し、
④ 一月〜三月期を「反処分・反合・三里塚」闘争として先制的攻撃的に闘う事により
⑤ 右翼的な労働線「と」ストなし春闘策動を打破していくこと。
⑥ 特に青年部は「12」の画期的成果を更に押し進め、県下・全国の青年協運動を高揚させ

- ⑦ 動労大改革をおし進め、重層的に拡大しつつある全国様々の単産にわたる共闘の輪を大胆に拡大し、真に闘う80年代のナショナルセンターの結成へと前進すること
⑧ 以上の基本方針に立って、当面する具体的課題を
(イ) 処分粉碎、転場からの怒りの決起と2月青年部局交渉
(ロ) 百万人署名地域共闘を拡大し、3・30三里塚への圧倒的な結集

- (ハ) 28狭山闘争
(ニ) 佐倉・銚子の結成、に絞ってつき進むことを圧倒的拍手のうちに確認した。

80年代こそが青年部の時代! 全支部の青年部長が断乎たる決意表明

戸村常任(成田)からの三里塚百万人署名の特別アピールの後、全支部青年部代表が勢ぞろいし、各々80年代を思いきり闘いぬくとの元気いっばいの決意表明が述べられ、満場の拍手のうちに全員立ち上って長田常任(蘇我)の音頭でシュプレヒコール組合歌として田中青年部長音頭で団結ガムバロウを三唱して集会を終了した。

動労千葉青年部は、まちがいなく今年も一面の最先頭で奮闘しぬくだろう。